

設立趣意書

子どもが家庭に生まれ、親と子の中で、ごく自然に行なわれるはずの、様々なかかわりを持ちながら成長していくことが難しくなっているという問題があります。その大きな要因としてメディアの問題があります。現代の子ども達を取り巻く環境は、ゲームやインターネット、携帯電話からスマホへとメディア漬けであり、家族の団らんや親子の会話が欠落し、今の子どもたちの心は不安定な状態になっています。その不安定な心は、自己肯定感や自尊心の低下につながり、不登校やいじめ等の遠因となっていることは否めません。大切なことは、家庭・地域・学校それぞれが、互いに協力・協働して子どもの成長のために必要な、今できる取り組みを工夫して実践していくことです。

この問題を、読書という方法で和やかな家庭環境をつくり、家族のコミュニケーションを豊かにする手法として「家読（うちどく）」は極めて有効であります。家読（うちどく）とは、家族ふれあい読書の略語です。家庭で本を読むことを目的とし、家族団らんの中で子どもが本にふれあうことで心豊かで健全な子どもの育成を願った取り組みです。私たちは、この「家読（うちどく）」を一部の熱心な方を中心とした活動にとどめることなく、福島県全体としての取り組みを視野に入れ、他地域への広がりを考えていきたいと思えます。

本ネットワークは、福島県内の家読（うちどく）を実践及び推奨している自治体、教育委員会、図書館、公民館、学校及び企業、民間団体と連携することで、それぞれの家読（うちどく）運動を活性化させ、福島県内の子どもの健全育成に広く貢献していきたいと考えます。

平成29年2月22日

福島うちどくネットワーク代表

国見町教育委員会教育長 岡崎 忠昭